

より良い親子関係講座

NO 88

夫婦の「子育てスタイル」の違いについて



講座を開いていると「夫が子どもを怒鳴る」「私と夫とのしつけについての考え方が違うので困る」など、ご夫婦で子育てについての考えややり方が違うことに戸惑っている声を聞くことがあります。夫婦それぞれの子育てのやり方を理解することは、お互いを良く理解するために役に立つだけでなく、子育てを楽しく、また子どもの健やかな成長のためにもとても大切なことです。APの創始者であるポプキン博士は、夫婦での子育ての違いについて次のように述べています。

【夫婦間における子育てスタイルの違いは、夫婦間にとっても、子どもにとっても問題の火だねになることがあります。その違いが大きいまま子どもが成長すると、子どもはある時は父親の、ある時は母親の期待する反応を示すような、ある意味「賢い」対応をするようになります。これは子どもの責任ではありません。子どもはその場を心地よく過ごすための「常識的判断」をしているとも言えるでしょう。しかし、このような状況は、家庭内のルールが不明確であったり、一貫性がなかったりといったような、子どもにとっても、親にとっても良くない状況を作り出すことがあります。

例えば、父親があまりにも厳しすぎると、母親は子どもに対して甘くなることでバランスを保とうとすることがありますが、この母親の試み自体が逆効果となり、ますます父親が子どもに厳しくなるといったこともあるからです。このような状況では、子どもは非常に混乱することになり、場合によってはメンタルヘルスにも影響を与えかねません。

だからと言って、夫婦間の子育てスタイルが必ず一致していなければならないというわけではありません。しかし少なくとも夫婦が子育てスタイルの違いと、それによって起こってくる問題について話し合い、子どもに対してどのように関わるのかを合意していた方が、子どもの成長にとっては有益であると言えるでしょう。

こうした夫婦間の話し合いは、お互いに譲り合う必要もあるかもしれませんが、子どもとのやり取りで問題が起こる前に夫婦間で話し合いをすることが大切です。最終的なゴールは、夫婦間で全く同じ子育てのスタイルでなければならないということではなく、子育てについて夫婦間でしっかり話し合うこと、そしてお互いをサポートし合うことを学ぶことが子どもの希望に満ちた輝かしい将来にとってたいへん重要なのです。】

そこで、もしあなたがAPを学び、APの学びを夫に伝えたい！と思っているならば、

- ① まず自分と子どもの関係を良くするということに専念しましょう。
- ② 批判、否定しない。思ってもAPが絶対いい！とは言わないように！
- ③ 相手の目につきやすいところに赤いテキストをさりげなく置いておく。
- ④ 夫に対して、勇気づけを実践する。
- ⑤ 考えや意見が同じところを探すことも大切です。

勇気くじきをしないようにね！



もう大丈夫！私たちはAP講座を受けました！

“Friendships During Covid-19”

Six years ago I shared about the ability of our grandson Carl, who was starting first grade then, to make friends. His mom was especially worried since his friends from kindergarten had been put into other classrooms. But Carl quickly made a new friend. Shortly after school started, though, seven-year-old Carl came home with a case of head lice.

I wrote in 2014: “When Carl went back to school he told his new friend that he had had head lice. His friend said, ‘If you have head lice, then I want head lice’ and put his head against Carl’s!”

Well, it seems that Carl has found a true and faithful friend in his new classroom. And his mother can relax about that issue.

But as we more experienced parents know, each stage of Carl’s life will bring other issues and new concerns.

By sharing AP skills, we are giving parents tools that can help their children face each issue in their life with courage and the ability to make wise decisions.”

Now in 2020 Carl and his mother, along with all the rest of us, are facing a serious and totally new challenge. As with all children Carl’s age, the Covid-19 pandemic has placed them in a tough situation.

Many children, Carl included, have been doing their classwork and meeting their teachers through Zoom rather than risking the classroom. Of course, this way of isolated learning greatly curtails the children’s social development from their interaction with other students.

The real danger, it seems at least in the U.S., is with the older teens who are in college. They tend to flaunt the recommendations and continue their parties with their peers in the dorms and other places. The statistics for the virus has risen considerably since the universities opened for on-campus classes this fall.

Young people in the U.S. have had a particular disadvantage, as their president, who should act as a role model, has made light of wearing a mask. Even after he caught the virus himself, he came out saying “don’t worry about Covid-19”—even though 220,000 Americans have already died of the coronavirus.

In two weeks the United States will elect a new president, at least that is the wish of millions of us getting our votes in early or by going to the polls on November 3. Hopefully, all Americans will soon have a new role model who will show them a better way to be responsible during this time of crisis in our world

My wish for you and your family is for you to be safe --and super supportive of each other .

--June Seat, Founder & Friend, APJapan

コロナ禍での友情

6年前に私は、小学校へ行き始めたばかりの孫カールの友達づくりについてお話しました。カールのお母さんは、幼稚園からの友だちがみんな別のクラスになってしまったのでとても心配していました。しかしカールはすぐに新しい友達を作りました。学校が始まってまもなく、7歳のカールは頭にシラミを付けて帰って来たのです。

私は2014年のリンクに次のように書いています。「カールは学校へ行ったとき、頭にシラミがついたことを友だちに話しました。すると、その友だちは『君の頭にシラミがいるなら、僕もそのシラミをもらいたいよ』と言って、自分の頭をカールの頭にくっつけたのです！かくしてカールは新しいクラスで心から信頼できる友達を見つけたようです。カールの母親もこの問題について一安心しました。

しかし、私たちのように経験豊富な親には想像がつくと思いますが、カールがこれから生きていく中で、また他の問題が生じ、新たな心配事は尽きないでしょう。

私たちはAPのスキルを分かち合うことによって、子どもたちが自分の人生において「勇気」と「賢い判断ができる力」を備え、様々な問題と向き合うのをサポートすることがする方法を親に提供しているのです。

2020年の今、カールとお母さん、そして私たち皆が、深刻で全く新たな困難に直面しています。カールを含め、多くの子どもたちが新型コロナのパンデミックが蔓延する厳しい状況にあります。カールを含む多くの子どもたちは、リスクのある教室ではなく、ズームを通して授業を受けたり、先生たちと顔を合わせています。当然このような孤立した学習方法は、他の生徒たちとのふれあいによって生まれる子どもの社会性の発達をかなり妨げるでしょう。

少なくともアメリカでみられる本当の危険は大学に通っている十代後半の若者たちです。彼らは勧告を破り、寮や様々な場所で仲間とパーティーを続けています。わが国でのウィルス罹患者はこの秋に大学キャンパスでの授業が始まって以来かなり増加しています。

アメリカの若者は、社会規範のモデルであるべき大統領がマスク着用を軽んじているので、特別な不利を被っています。大統領はコロナに感染した後でさえ「コロナは心配ない」と言っているのです。アメリカではすでに22万人の人がコロナで死んでいるにも関わらず――。

あと2週間でアメリカは新しい大統領を選びます。期日前投票する多くの人たちが、あるいは11月3日に投票に行く人たちが、少なくとも大統領が代わることを望んでいます。全てのアメリカ人が私たちの世界で起こっているこの危機的な状況で、責任のあるより望ましい道を示してくれる新しい規範モデルとなる人を待ち望んでいます。

皆さんとご家族が無事でありますように、そしてお互いを思いやることができますようにと願っています。

APジャパンの創設者であり友人のジューン・シートより

訳：野口紀子

Toshikoの“絵本からこんにちは！”



今日ご紹介の絵本は、

「かみさまからの おくりもの」 ひぐちみちこ こぐま社

「ちいさなあなたへ」 アリソン・マギー (著), ピーター・レイノルズ
(イラスト), なかがわ ちひろ (翻訳)

「あかちゃんが うまれるとき かみさまは ひとりひとりの
あかちゃんに おくりものを くださいます」

絵本の中の5人の赤ちゃんに神さまはそれぞれ一つずつ贈り物を
くれました。「わらう」「ちからもち」「うたがすき」「よくた
べる」「やさしい」

うちの4人の子どもたちにも、神さまからとってもステキな贈
り物が届きましたよ！長女には「センスの良さ？」長男には「マ
イペース？」二女には「勇気？」三女には「想像力？」

AP講座の中で子どもの良さを考えるとき、私はいつもこの本
を思い出します。

もう一つの本「ちいさなあなたへ」は、じつは自分自身へのプレ
ゼント。しずかに、一人でこの本を読むのが好きです。わが子へ
の思いがあふれているこの本を読むと、私はいつも胸がキューン
とします。そして子どもたちが小さかった頃を思い出します。子
どもへの親の愛情はどのような時代になっても、変わらないもの
なのでしょうね。



～留守家庭でもAPを活用してます！～

コロナウィルスの影響で留守家庭も様々な制約を受けることになりました。以前は学校から帰ると手洗いを済ませ、連絡帳を提出し宿題をします。遊ぶ時間になると、一斉に校庭に飛び出していきます。楽しい外遊びの始まりです。ドッチボール、サッカー、バスケット、なわとびなどの遊具を使い、友だちと仲良く、時にはケンカしたりして思いきり遊んでいました。

ところが、コロナによって子どもたちの遊びや生活はすっかり変わってしまいました。手洗い励行、部屋では必ずマスク着用。3密を避け、ソーシャルディスタンスを守って、座るときも相手との距離をとることや対面は避けること。みんなで遊ぶゲームは禁止。以前よりも制限が多く、窮屈そうですが、子どもたちはそのような状況下でも、たくましく遊んでいます。

私が働いている留守家庭では、学校から帰ってきたら手指の消毒（手洗い励行）をします。外遊びやトイレがすんだら、石けんで手洗いをさせます。もちろん手を洗うときは先生たちが見ていて、声をかける場面は多く「もっと石けんをちゃんとつけて！」とか「指の間も丁寧に洗おうね」と助言したり、励ましたりしています。

留守家庭で働く中で、日頃から私が大切に思っていることが2つあります。一つは子どもたちへの言葉かけ。もう一つは父兄への言葉かけです。

1、2年生の子どもたちに対しては、たとえば手洗いの時「約束を守って、丁寧に手を洗えているから、あなたはいつも元気なんだね～」とか「急いで洗っているように見えるけど、ちゃんと洗えているってすごいよね！」など、洗っている子どもに笑顔で感想を言うようにしています。それから子どもの手を見て、子どもの顔を見て「きれいに洗えたね」「しっかり洗うことができるようになったね」などと励まします。すると、じょうずに洗えている子は嬉しそうにするし、洗い残しがある子はなんだかんだと言いつつも、もう少しがんばって洗ってくれたりします。

また、3、4年生の子どもには、子どもの洗っている姿を優しく見つめ、うなずいたり、「ほ～」という顔で手元を見守り、それから笑顔で「さすがです！」「いつも元気なのは、きちんとできているからなんだね」「1、2年生にも真似してもらいたいわね～」と一言、言葉をかけるようにしています。

APを学ぶ前の私は、時間の制限もあり、子どもたちの困った行動に目が行くし、思い通りに動いてほしいために「命令」「指示」「ダメだし」「否定」しがちでした。

（今も同じようなやり方で関わっている先生も多いようですが！）手洗いにしても「何回言ってもちゃんとできないんだから・・・（汗）」「もっときちんと洗いなさい！」と大きな声で叱咤していたと思います。

ここはAPの「行動のサイクル」を活用し、私の考えを変えてみることで、子どもへの声かけもその子どもの良さ、できているところ、当たり前と思うようなことも含めて、自然に勇気づけができるようになりました。APを学び続けてきたことで、徐々に、できるように身についたのだと思います。

さて、もう一つの父兄への言葉かけについてです。留守家庭での預かりは夕方5時までで、5時までに親が帰宅できない場合は7時までの預かりがあります。用事があってお迎えに来られる父兄もおられます。そんな時に私が父兄にかけている言葉があります。それは子どもが少しでも協力できたところ、たとえば皆でおやつを食べる前に静かに待っていたとか、手を洗うとき、下級生を押さなかったとか、手を丁寧に洗えているとか、お友だちとボールで楽しそうに遊んで笑い転がっていたとか、ふだんの何気ない、できて当たり前だと思っている小さなことを伝えるということです。

また、ときどき話したり、あるいは顔見知りの父兄には、まず今日の印象、たとえばちょっと疲れ気味かな？と思った時は、一つだけ「良いところさがし」をしてみます。「その髪型似合っているわね！ステキですよ」「時々自分にもご褒美をあげてね」とか、どんなことでもいいので、とにかくその人の良さを伝えるようにしています。周りの人から言われなくてもやっているとは思いうけど、そこを保障してもらえるような言葉を聞くのは、エネルギーになるかなと思います。かつての私もそうやって周りの人たちから「良いところさがし」をして勇気づけられて、エネルギーをつないできましたので、一言だけでも働く力やがんばる力になると信じています。

留守家庭で子どもたちの「今」を保障し、支えることは、子どもの命、未来を支えることになるのではないかと考えています。それは父兄にも通じることで、父兄も一生懸命に生きていると思うのです。子どもたちだけではなく、その働く父兄にも励ましや勇気づけが必要ではないかと思いつつ、、、、今日も留守家庭に行ってまいります！

福岡市トレーナー 金子 左代子



新リーダーご紹介！！（敬称略）

☆ 福岡市早良区：田川佐知子 ☆ 東京都杉並区：小野妃史

☆ 福岡市城南区：畠中愛子



～リーダー最終課題レポートより～



初めまして！田川佐知子と申します。私の失敗談を皆さまに伝えることで、一人でも「生きづらさ」を感じているお子さまや、子育てで悩まれているママ、パパたちを減らし、誰しも、何ができても、できなくても、「私は、最高！」と感じてもらいたいという想いで、APを学ばせていただきました。

私の母は、極度の心配性で、私は幼少の頃から「生きづらいな。でもお母さんが世界で一番好きで尊敬する人」と、思っていました。中学生になり、世の中がひっくり返るかと思うくらい驚いたことがありました。「私のママは、世界一ではない！ 言っていることや、行動がおかしい！」と。

時は流れ、私もママになり、娘二人を設けました。かわいくて、他の人に触らせたくないほど、溺愛していました。そして、いつしか私の子育ては母とそっくりなものに！！ 娘の人生にルールを敷き、行き先を決めるのもすべて私。娘の歩む道に、小石や雑草があればすべて取り除いてきました。そして、自分の気分が乗らないときは知らんぷり。「もう、一人でできるでしょ！」と。毒親そのものでした

娘が中学一年生の時、不登校になりました。そこから2年間、色々なことがありましたが、その出来事のお陰で、私は目が覚めることができたのです。学校に行っても、行かなくても、何ができても、できなくても、この子は私の大切な、かけがえのない子なのだと。

今、娘は高校一年生。たくさんのお友だちに囲まれ、娘を頼ってくれるお友だちもできたようです。前日に学校の準備を済ませ、朝7時には「いってきま～す」と、足どりも軽く、元気よく出発する娘。ただただ娘を信じて、親として、寄り添えばよかったんだ。

「子どもの人生は、子どものもの」APに早く出会っていれば、娘も私も、もっと軽やかに生きられたのかな？ APを皆さまに知っていただいて、もっと素敵な親子関係になって欲しい。そしてこの想いを胸に、今後講座や講演活動を行っていきたいと思っています。

私の夢は、APのテキスト第Ⅰ章が世界に広まることです。「誰もが尊敬し合える世界になりますように！ そして安全安心の場を提供できますように」まずは私の家庭から。そして、今、過去の失敗（私の子育てや、不登校の出来事）は、私の宝になりました。APに出会えて、本当によかった。野中先生に感謝申し上げます。それから私の成長を見守ってくれた娘二人と、最愛のパートナーに感謝。最後に、やっぱり世界一の私の母に感謝を。あ！お父さんも！！

福岡市早良区：田川 佐知子

ひとり親、共働きの社会が増え、ゆっくり子どもと過ごす時間が少なくなっていると思います。その中で孤食も増え、親子のコミュニケーションも減り、子どもの中での問題も親が気づきにくくなっています。こうしたことから親が子どもへの期待が強く、子どもの考えを聞かず、親の意見で固めてしまう傾向にあります。親子のゆっくりした時間が持てないと、コミュニケーションの壁ができてしまいます。忙しい日々の中、ほんの数分、数十分でも親子の時間を作ることにより、よりよい親子関係を築いていけると 생각합니다。

東京都杉並区：小野 妃史

いつの時代も、子どもは目を輝かせて真っさらに生まれてきました。そして、それは今でも同じです。そんな真っさらな子どもを受け入れ、世界は喜びに溢れていて、生きるとは素晴らしいことだと教えるのが先に生まれた大人の役割だと思っています。

しかし残念ながら、昨今の忙しい社会では大人の余裕のなさからそのような重要なことが忘れられているように思います。未来を創造していくのは間違いなく子どもたちです。その子どもたちを育てることは社会で最も大切な仕事であるはずなのに、その方法について学ぶチャンスはとても少なく、それゆえにうまくいかないのは当たり前です。

親が子育てについて学ぶ事で、勇気のある子どもが育ち、自立し、責任感や協力精神を磨いて世界で羽ばたいていく。そうになっていけば社会はもっと素晴らしいものになると思います。

子どもについての悲しいニュースや、私たちの子ども時代には存在しなかったトラブルに胸が痛くなる事もありますが、何事も目を逸らさず、より良い家族関係、ひいてはより良い世界のために、学び続けていきたいと思っています。

福岡市城南区：畠中 愛子

「星を投げる人」

(1998年リンクNO1より抜粋)

～何千何万というヒトデが生殖する
コスタベル海岸の物語です～

潮が満ち引きするあいだに砂浜に打ち上げられ、海に帰ることのできないヒトデを一人の若者が拾い上げてはまた海に戻していました。そこへ一人の科学者がやって来て、「そんなことは時間の無駄じゃないか。この辺りではたくさんのヒトデが死にかけているのだからさ、君のやっていることは何のの違いも作りはしないよ。無意味なことだ」と言いました。若者は身をかがめて、また一つ、ヒトデを手にとるとそれを海に投げました。「今、僕は違いを一つ作りましたよ」

この話は私にAPリーダーとして私たちの仕事（活動）を思い起こさせます。時々、一つのクラスが終わり、また新しいクラスを始めようとする時、何かしら疲れたように感じることもありますね。幾多の問題を抱えている家族のニュースを読んだりすると、本当に気持ちが萎えてしまいます。そして、つい、この科学者のように考えて、独り言を言うことがあります。「この世界には勇気がくじかれた家族がなんと多いのだろう。そして私がたった一人でやっていることで、いったいどんな違いを作るといえるのだろう」

でも、私たちはもっとこの若者のような考えを持とうではありませんか。APクラスを通して、私たちが関わっているそれぞれの家族のために、一つずつ「違い」を作っていきます。

私たちの新しいテキストも出来上がりました。さあ、APのやり方をみんなに教えるために、忙しい思いをしましょう！ヒトデを海に投げ返すような私たちの仕事が、この世界に「違い」を作っていくのです。一つの家族、そしてまた、一つの家族というふうに。

AP創始者・AP教育コンサルタント
ジューン・シート

私はこのジューンさんのエッセイ「星を投げる人」が大好きです。この大好きなエッセイは、APジャパンの代表になって今年で22年になりますが、私の心の中にいつも在り、勇気づけられています。

この若者のように、私たちは一人ひとりの親にAPを届け、その家族が「違い」を実感し、より良い親子関係を末永く築いていくことができるように、これからもAPを届け続けていきましょう！

🎀 今日、長女の8歳の誕生日 🌸

昨日、お友達のおうちにお泊りして、遊び疲れたのかリビングで眠っています。お泊りすることで沢山のご家庭を経験して、そのご家庭ごとの「あたりまえ」に触れてほしいなあと思っています。

一昨年の春、次女が生まれて、長女には5歳差の妹ができました。妹ができることを楽しみにしていたけれど、いざ蓋を開けてみるとジェラシーが止まらない様子。赤ちゃん返りする長女。セオリー通り、次女は二の次にして長女第一の暮らしを送ってきました。たしかに、長女が満ち足りていると、次女とも良い雰囲気。

お互いに「さーちゃんが憎い!」「ねえねが憎い!」と口に出すこともあります、そんなことも含めて笑いあえる2人に育っています。

次女が2歳を過ぎたころ、私はふと気づきました。「わたし、次女も第一にしたかった!」長女と次女との関係を鑑みながら次女と付き合うのではなく、私と私の娘として、マンツーマンで向き合いたかったなあ。赤ちゃんの時から。そんな思いがじわじわと湧き出てきました。お喋りが上手になってきた次女も「さーちゃんのママ!ねえねのママ、いない!」生まれた時から、その気持ちはあったんだろうな。セオリーとか長女のジェラシーは別なこととして、自分と次女の気持ちも大切にすればよかった。子育てに余裕が出てきた今だからこそ思えることかもしれませんが、そんな後悔も。

ある日の夕方。お風呂に入る直前に、長女と次女がお人形のとりあいでケンカをしました。力技でお人形をもぎ取られた次女は、号泣しながら私のお膝にやってきました。なんだかキューンとしてしまつて。湯船で抱っこしてヨシヨシしたい気持ちになりました。「ごめん、みーちゃん。ママ、さーちゃんをヨシヨシしたいから5分くらいしてからお風呂に来てもらっていいかな?」長女は憮然として、「みーちゃんが泣いたときも抱っこして慰めてくれる?」

スキンシップ多めの我が家。抱っこやヨシヨシは言わずもがなです。それをあえて聞いてきた長女に、この時はなぜか返事をする事ができませんでした。長女が湯船に入ってきて、3人一緒のお風呂タイム。次女はすでに泣き病んで、湯船でオッパイを堪能しています。俯いて、ずっと無言の長女。どうしたらよかったのかなあと、私も無言でいると「みーちゃんもヨシヨシして!」「ほら、おいで!」体育すわりのままの長女を右腕で抱きしめました。長女と私の間に、長女のひざ小僧があったので、もっと近くでだきしめたくて90°右に回転。赤ちゃんの様に横向き抱っこです。

「ヨシヨシ、みーちゃんも慰めてほしかったね。可愛い可愛い。ママの大事だよ」

手も足もすっかり伸びて、私の腕からはみ出てしまっているけれど、長女は赤ちゃんのように丸くなって、穏やかな表情で微笑んでいました。いつもなら割り込んでくる次女も、おとなしくコトの成り行きを見守っています。私の胸のなかにあった蟠りがすーっとなだれていくのを感じました。2人の娘を両腕で抱きしめながら、「みーちゃんも、さーちゃんも、ママの大事だよ。ママのところに来てくれてありがとうね」私の方が娘たちにヨシヨシしてもらっている気持ちになりました。

と同時に、ふと夫の顔が脳裏に浮かびました。ママ第一の娘たち。彼には今のところ、こんなシチュエーションはやってこないわけで。

「夫、わたしだけこんなに愛されてゴメン!ガールズへの愛情、私は知ってるからね!」帰ってきたら、肩でもお揉みしようと思うのでした。

埼玉県和光市リーダー 富施 佳子



APジャパンからのお願いです！

- ★ リーダー、トレーナーは講座が決まりましたらテキストを注文し、受講生の名簿(名前、住所、電話番号)をお送り下さい。テキストの売り上げと受講生の名簿管理のため、講座が決まってからテキストのご注文をお願いします。名簿には郵便番号とお名前にふりがなをつけてお送り下さい。また転居された場合はご連絡下さい。
- ★ 年会費はリーダー資格登録年会費(6,000円) トレーナー登録年会費(10,000円) となっております。2020年分のご入金をお願い致します。講座するしないにかかわらず年会費の納入をお願いしております。
- ★ オンライン講習を開催される方はAPジャパンまでオンライン講座登録をお願いします。
- ★ リーダー・トレーナーで退会される場合はかならずご連絡下さい。退会の連絡がない場合は年会費の請求が続きます。
- ★ APジャパンの住所内（本部）には常駐しておりません。テキストの注文や受講生名簿の送付などのAPジャパンへのご連絡は携帯電話あるいはメールをお願いします。
- ★ リーダー会、リーダー研修会、AP講座、フォローアップ講座、講演会等の予定はホームページに掲載しておりますのでリーダーは必ずご覧下さい。

APジャパン本部（代表 野中 利子）

☎：携帯電話：090-8391-3196

P Cメール apjapan@activeparenting.or.jp

携帯メール toshiko-mama-718@ezweb.ne.jp

あとがき：

今年のはあつという間に、世界中に広がった「新型コロナウイルス」に恐怖を感じながらの一年でしたね。現在も「第3波」の不安は大きく、私たちの生活をとても窮屈にしています。「生きているだけでいい！」本当にそんなふうに実感します。このような不安な状況の中、コロナ感染に気をつけながら、たくさんのママたちに講座を届けて下さったリーダーの方々に心から感謝申し上げます。これからも確実に、皆さまの力をお借りしながら「コツコツと、お一人、お一人に」APを届け続けていきたいと思っています。ジューンさんがリンクNO1のエッセイに書いて下さった「星を投げる人」になって、「違い」を作っていきましょう！！
それでは皆さま、どうぞ良いお年をお迎え下さい。



APP社のホームページ

<http://www.activeparenting.com>

APジャパンのホームページ

<http://www.activeparenting.or.jp>

「リンク」はAPジャパンの印刷物です。

© 2020 発行者 APジャパン

代表 野中 利子

〒814-0111

福岡市城南区茶山2-2-5 (本部)

電話：090-8391-3196

FAX：092-851-8606

apjapan@activeparenting.or.jp

季刊誌「リンク」は年4回発行しています。
ホームページでご自由にご覧下さい。